

---

---

**ランチョンセミナー**

---

---

**小児の急性中耳炎に関わる新しいタイプの耐性菌 (抄録)**

紺野 昌俊

帝京大学 名誉教授

ヒトに備わる免疫機能は、麻疹と共に小児期罹患する肺炎球菌やインフルエンザ菌による感染症によって成熟する。もし、これらの細菌に、従来と異なる耐性菌が生じたら、どうなるのであろうか。今日、市中で見られる多くの反復・遷延する急性中耳炎には、これらの耐性菌が関与している。その侵淫状況は、保育園を中心に急速に全国に拡散している。MRSAによる院内感染が、大都会の大病院から地方の中小病院へとドーナツ型に拡がっていった構図と、似て非なるものがある。何故なら、PRSPと言われる肺炎球菌、BLNARといわれるインフルエンザ菌による感染症は正しく市中感染症なのである。何故、これらの耐性菌が生じたのか(?), 薬剤耐性のメカニズムは(?), 伝播形式は(?), 病原性は(?), 遷延・反復する原因は(?), 適応する抗菌薬は(?) 将来像は(?) など解決すべき問題は多い。時間の許す限り、これらの問題点について解説を加えていきたい。